

## 4. 県内の医療体制

## 4

## 県内の医療体制

### (1) がん診療連携拠点病院および地域がん診療病院

#### ■ がん診療連携拠点病院

全国どこに住んでいても、がんの状態に応じて適切ながん医療が受けられるように設置された病院です。以下の項目を推進しています。

- ① 専門的ながん診療
- ② 専門的な知識や技能を持つ医師の配置
- ③ 地域の医療機関や医師との連携と協力体制の整備
- ④ 患者さんへの相談支援と情報提供
- ⑤ がん登録など、質の高いがん医療

➡ P28

#### ■ 地域がん診療病院

がん診療連携拠点病院がない医療圏に、都道府県の推薦をもとに国が指定した病院です。拠点病院と連携しつつ、専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供を行っています。

➡ P28

### (2) がん診療を行っている医療機関

沖縄県医療計画では、国の指定を受けたがん診療連携拠点病院をはじめ、手術療法、化学療法または放射線療法を組み合わせた集学的治療等を実施する医療機関を掲載していますので、沖縄県ホームページをご覧ください。

➡ P28、P29



#### 医療施設一覧(沖縄県保健医療部医療政策課ホームページ)

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/iryoseisaku/medicalfacilities3.html>

※その他のがんの専門施設については、  
がん相談支援センターにお問い合わせください。➡ P10



#### コチラもCheck! 『がんになったら手にとるガイド』

- ➡ 「療養生活を支える仕組みを知る」
- ➡ 「地域のがん診療の連携の仕組みを知っておく」

### (3) 希少がんと小児がんの診療病院

希少がんとは、発生の稀ながんを示す言葉です。沖縄県内では、希少がんの診療経験が豊富な琉球大学医学部附属病院での診察が推奨されます。希少がんの詳しい情報に関しては、国立がん研究センター希少がんセンターのサイトをご覧ください。

小児がんは0歳から15歳までの小児がかかるがんの総称です。大人のがんに比べて、患者の数が少なく、こちらで診断や治療の経験が豊富な医療機関での診療が推奨されます。沖縄県内では琉球大学医学部附属病院と沖縄県立こども医療センターがその医療機関にあたります。診療所を含むどこの小児科で最初の診断がされても、前述の2つの病院に紹介されることが確立されていますので、ご安心ください。

国立がん研究センター希少がんセンター ➡ P25

国立がん研究センター小児がん情報サービス ➡ P25



いったーあんまー まーかいがー

べーべーぬ 草刈いが

べーべーぬ まさ草や

(いったーあんまー まーかいがー)

## 4

## 県内の医療体制

(4)がん診療を行っている沖縄県内の医療機関

病院名	大腸がん	肺がん	胃がん	乳がん	子宮頸がん	肝がん	胆道がん	膵臓がん	食道がん	前立腺がん	甲状腺がん	血液腫瘍	放射線療法
県がん診療連携拠点病院													
琉球大学医学部 附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域がん診療連携拠点病院													
沖縄県立中部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
那覇市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域がん診療病院													
北部地区医師会病院	○	—	○	○	—	○	○	○	○	—	○	—	—
沖縄県立宮古病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
沖縄県立八重山病院	○	○	○	—	○	○	○	○	○	—	○	○	—
その他の医療機関													
沖縄県立北部病院	○	—	○	—	—	—	○	○	○	—	○	—	—
たいら内科クリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
KIN放射線治療 ・健診クリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
中頭病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中部徳洲会病院	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—
ハートライフ病院	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—
国立病院機構 沖縄病院	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
浦添総合病院	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—	○	—	—
同仁病院	○	—	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—

病院名	大腸がん	肺がん	胃がん	乳がん	子宮頸がん	肝がん	胆道がん	膵臓がん	食道がん	前立腺がん	甲状腺がん	血液腫瘍	放射線療法
宮良クリニック	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マンマ家クリニック	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
おもろまち メディカルセンター	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—	○	—	—
大浜第一病院	○	—	○	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—
沖縄赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
沖縄協同病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
那覇西クリニック	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
与那原中央病院	—	—	—	—	—	—	○	○	—	—	○	○	—
南部医療センター ・こども医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
沖縄第一病院	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—
南部徳洲会病院	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	—	—	○
豊見城中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
宮古島徳洲会病院	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石垣島徳洲会病院	○	—	○	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—

(2018年9月現在)

出典：医療施設一覧（沖縄県保健医療部医療政策課ホームページ）  
<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/iryoseisaku/medicalfacilities3.html>

医師の異動等では対応できるがん種や治療の範囲が変わる可能性があります。詳しくは各病院にお問い合わせください。

セカンドオピニオンおよび実施施設の連絡先 → P22  
 医療機関の連絡先 → P94

## (5) 離島とがん ～通院治療の選択～

### ■ 宮古島、石垣島以外の離島で暮らす方へ

地元の医療機関でできることが限られているため、心配も大きいと思います。しかし、いまは必要であれば、すみやかに地元の医療機関から必要な医療機関に紹介されます。特に前述した拠点病院（含む診療病院）は、医療だけでなくさまざまな相談に応じることができますので、離島の患者さんは積極的に利用することをおすすめします。

また、主な治療の終了後は、治療した医療機関だけでなく、地元の医療機関でも経過観察をすることが大切です。必ず地元の医療機関でも、がんの治療後の経過観察をしてもらうようにしましょう。

飲み薬での薬物療法（抗がん剤、ホルモン剤など）が必要なときは、地元の医療機関でも治療継続が可能です。主な治療を行った医療機関の医師に、地元の医療機関でどのように治療を継続していくかを相談してください。

### ■ 宮古島、石垣島で暮らす方へ

地域にはそれぞれ、診療病院の指定を受けた県立宮古病院と県立八重山病院があります。希少がん以外のがんの治療が可能ですので、がん患者の7～8割の治療を行うことができます。また、希少がんでも、主な治療を行った病院との連携により、ほとんどの場合は治療の継続や経過観察が可能です。

さらに、前項でも述べましたが、より自宅に近い医療機関での経過観察や飲み薬での治療継続が可能ながあります。それぞれの病院の医師に地元の医療機関でどのように経過観察、または治療を継続していくかを相談してください。

\* 離島におけるがん医療については、本冊子以外に、「がん患者さんのための療養場所ガイド」があります。離島ごとの詳しい情報が記載されていますので、ご参照ください。

## 沖縄県 がん患者さんのための療養場所ガイド シリーズ全8巻



1

竹富町  
与那国町編



2

石垣市編



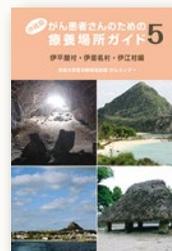
3

多良間村編



4

宮古島市編



5

伊平屋村・伊是名村  
伊江村編



6

本島北部編  
国頭村・大宜味村  
東村・今帰仁村  
本部町・名護市



7

本島周辺の離島村編  
粟国村・渡名喜村  
座間味村・渡嘉敷村  
北大東村・南大東村



8

久米島町編



## 体験談

## 療養手帳(日記)をつけました

がんを告知されたとき、治療について、先生は説明文書に書き込みながらいねいに説明をしてくれました。がんを受け止めて前向きに話を聞き、理解したつもりでいました。

入院して手術を受け経過もよく、「悪いところは切った、もう治った」そんな思いを持ちました。

そして退院後、術後補助療法として化学療法、放射線療法、ホルモン療法をすすめられました。思いもよらないフルコースの治療でした。がんを告知されたときと同じくらいのショックを受け、聞いていないという怒りがわいてきました。

その後、手術前の説明文書を読み直してみて、手術前にきちんと術後の治療についても説明があったことを思い出しました。しっかりと説明を聞いたつもりでしたが、告知を受けて動揺していたことや、嫌なことや不安なことは考えたくないという気持ちが記憶を消した(忘れた)のではないかと苦笑してしまいました。

それから文章に残すことの大切さに気づき、自分の療養手帳(日記)をつくりました。書くことで自分の体や心に向き合ったり、経過を冷静に判断できたり、くじけそうになったときに、その時々のおいや決心を思い起こしたりして有効に活用しています。



(『がんになったら手にとるガイド』「がん体験者の皆さんの手記」より)